

## 国際連携委員会 国際交流推進特別委員会 合同開催 議事録

(平成 29 年 11 月 29 日 12:00～13:15)

出席：以下の委員全員が出席した。

国際交流推進特別委員会委員（○新委員）

	役職	所属大学	氏名
1	委員長	岐阜大学	山本真由美
2	副委員長	金沢大学	吉川弘明
3	委員	山形大学	富樫 整
4	委員	政策研究大学院大学	鈴木真理
5	委員	東京工業大学	丸谷俊之
6	委員	東京農工大学	○ 原田賢治
7	委員	京都大学	石見 拓
8	委員	神戸大学	馬場久光
9	委員	高知大学	岩崎泰正

国際連携委員会委員(JUHA)

	役職	所属大学	氏名
1	委員長	岐阜大学	山本真由美
2	副委員長	立命館大学	中川 克
3	委員	北陸先端大学院大学	林 多喜王
4	委員	金沢大学	吉川弘明
5	委員	慶應義塾大学	河邊博史
6	委員	佐賀大学	佐藤 武
7	委員	大阪大学	守山敏樹
8	委員	岐阜大学	西尾彰泰

はじめに、新委員の原田委員から挨拶があった。

### (1) 報告事項

- ① ホームページ上で公開中の支援ツールを更新したことが委員長から報告された。
- ② Health Management on Campus(2017年3月1日改訂版)が完成したことが委員長から報告された。
- ③ 国際交流：2017年6月1日 米国大学保健管理協会(ACHA)の年次学術集会(オースチン)で、ACHA/JUHA セッション(大学生のメンタルヘルスについて)を企画・開催し、情報交換、交流を深め、5件のポスター発表が日本から採択されたことが委員長から報告された。  
⇒ 来年のACHAは5/29～6/2でワシントンDC開催、ACHA/JUHAセッションでは、トラベルメディシンをテーマに企画することが中川副委員長から説明された。

### (2) 検討事項

- ① 阪上先生(京都大学)より、「留学生のメンタルヘルスに関する全国規模の記述疫学研究」を国立大学対象に実施したいため、本委員会へ協力要請があり、石見委員から説明があった。本委員会として何をするのか、何を期待されているのかは、石見先生から後日、確認され改めて本委員会へ依頼されることとなった。
- ② 来年のACHAでの発表もふまえ、「全国の大学を対象に学生を海外へ留学に送り出す際の健康管理の支援はどのようなことをしているか」について、丸谷委員より調査提案説明があった。
- ③ 中川副委員長からは、留学生受け入れ保健管理業務の実態調査依頼が渡航医学会からあり、この実施について提案があった。

\* 今後の本委員会の研究や調査活動のあり方について、意見交換された。

大きく次の2つのパターンが想定される。

第一は、本委員会が主体となって、調査・研究を行なうものである。研究代表責任者(研究費管理も含め)は委員会の委員が担う。分析、論文化、公表にあたっては、委員会の成果とみなされると理解する。

第二は、委員会の委員以外の研究者による共同研究依頼の形である。この場合は、研究内容と依頼内容を委員会で検討し、個々の事例で判断していくことになると考えられる。しかし、共同研究である以上、結果については委員会へ報告し、利活用させてもらうことも可能にしていきたい。中川副委員長からは、「共同研究依頼において一番の依頼目的は、全国大学保健管理協会、または、国立大学保健管理協議会の会員リストやメールリストの使用にあると思われるので、これを許可するかどうかを委員会で検討することが必要となる」との指摘があった。

- ④ ACHA から ACHA-NCHA (National College Health Assessment) を日本語に翻訳して日本で実施し、国際比較検討をしてはどうかとの共同比較研究の提案があった件についての意見交換がなされた。

ACHA-NCHA を日本語訳することが、適当な日本人大学生のアセスメントになるかどうか疑問である点が指摘された。また、本当に“比較研究”をするのであれば、質問文のバックトランスレーションやバリデーションスタディーも必要であるが、その手間とニーズのバランスを考える必要があることも指摘された。すでに国立大学は学生白書として健康診断によるデータ収集(回収率もそこそこ高い)がなされている現状を考えると、テーマを絞って日米のデータ比較をしてはどうか、例えば、「喫煙率の日米比較」とか、「20g エタノール/日以上飲酒率の比較」などはどうであろうか、などの建設的意見も出た。さらに、調査費用対効果を心配する指摘もあった。以上のような意見交換を踏まえ、今後、国際交流の一環としての国際交流研究の形については、データ一元化の委員会の動静も見ながら考えていくこととなった。

(3)その他

河邊委員から、今年度で退職となるため、委員は今年度で退任したい旨の報告があった。次年度からの委員に横山裕一先生(慶應義塾大学、yokoyama@a7.keio.jp)の推薦があり、承認された。